

第1回 第6次碧南市総合計画 第1分科会（安心安全）

日時 令和元年11月28日（木）

午前10時から

会場 碧南市役所2階 談話室3

1 経営企画課長あいさつ

2 自己紹介

3 第6次碧南市総合計画策定の進捗状況について

4 意見交換

5 今後のスケジュール（予定）

(1) 令和2年1月中下旬 第2回第6次碧南市総合計画分科会

(2) 令和2年3月中下旬 第2回第6次碧南市総合計画審議会

(参考) 第6次碧南市総合計画分科会別名簿

		氏名	団体・組織名等	役職	分科会
2	副会長	石川 和昌	碧南市連絡委員幹事会	代表幹事	1
3	委員	鈴木 泰博	碧南交通安全協会	副会長	1
4		石川 鋼逸	碧南市消防団	団長	1
19		永坂 幸子	碧南市女性団体連絡協議会	会長	1
20		原田 利夫	碧南市市民活動センター運営委員会	委員長	1
23		竹原 幸子	へきなん市民環境会議	会長	1
25		森下 敏弥	市民公募		1
28		柴田 和子	市民公募		1
29		長田 あすみ	市民公募		1

9名

碧南市の現状分析と将来展望のまとめ

碧南市の動向・都市間比較

■人口

- ・H20 年以降人口減少が続いていたがH27 年以降人口増加に転換。今後も人口増加が続くと予想。しかし、増加するのは外国人人口で日本人は減少が続く
- ・65 歳以上人口割合は 22.7%と県平均よりは低い
- ・外国人割合は 4.1%と県平均(2.2%)より高い
- ・10 代男性は転入超過であるが、それ以外は転出超過。特に 20 歳代、30 歳代は男女ともに転出超過傾向にある
- ・周辺都市とでは転入超過となっているが、名古屋市、西尾市、半田市への転出超過が大きい。

■都市基盤

- ・公共下水道普及率、土地区画整理整備率は周辺都市に比べて低い
- ・周辺都市に比べて持ち家率は高く、住宅価格は低い

■産業

- ・人口当り製造出荷額、農業産出額は周辺都市の中で最も高い
- ・人口当り年間商品販売額、小売店面積は周辺都市に比べて低い

■福祉・医療

- ・市民一人当たり病床数は周辺都市の中で最も多いが、市民一人当たり医師数は県平均を下回る
- ・要支援・要介護認定者数の割合は、周辺都市の中では中位に位置するが県平均を下回る

■教育・文化

- ・市民一人当たり文化・体育施設数、公立図書館蔵書数は、周辺都市の中では多い
- ・教員一人当たり中学校生徒数は周辺都市の中では最も少ないが、中学校生徒数は最も多い

■財政

- ・財政力指数は 1.18 と高い

アンケート調査結果

■市民アンケート

- ・住みやすいと感じる人は 86%、今後も住み続ける人は 88%
- ・ここ 10 年間の効果が上がった施策として「油ヶ淵などの水環境や公園の整備」と「特産品や商品の知名度向上」の評価が高い
- ・定住促進策のために重視する施策は「交通網の整備」と「商業施設の誘致」が多い
- ・将来イメージとしては、「災害、犯罪・交通事故から安全なまち」「子育てやすいまち」の回答が多い

■高校生アンケート

- ・碧南市の良い点としては、「静かに落ち着いて暮らせる」「治安が良い」「自然」が多く、欠点としては「公共交通機関の便の悪さ」「中心市街地に楽しめる施設がない」が多い
- ・碧南市内で就職した理由としては「自宅から近い」「友人知人が多い」「碧南市に愛着がある」が多い
- WEBアンケート(碧南市及び周辺都市の25歳～39歳を対象)
 - ・碧南市の子育て環境は、周辺都市の中でも評価が高い
 - ・子育てしやすさの理由としては、「経済的な支援の充実」「遊び場や公園の充実」「保育園・幼稚園の充実」が多い
 - ・周辺都市の中では定住意向の割合が低い
 - ・碧南市の欠点は「交通が不便」「買い物が不便」「災害の危険性」が多く、魅力は「公園・遊園地」が多い

社会経済潮流の変化と求められる対応

■人口構造の変化

- ・超高齢社会の進展：膨大な医療・介護需要
 - ⇒在宅介護、在宅医療へのシフト、総合的な認知症対策
 - ⇒病床の機能分化・連携や医療・介護の連携、健康づくりの推進
 - ⇒高齢者の就労・社会参加の促進
- ・生産年齢人口・年少人口の減少：人材不足・後継者不足の深刻化
 - ⇒特色のある教育機能と人材の育成、リカレント教育の推進
 - ⇒若者の定住、女性活躍の促進
- ・年少人口の減少：学校の小規模化
 - ⇒専門性の高い教育ときめ細かい教育の両立

■インフラ・空間の変化

- ・インフラの老朽化・人口減少による維持管理効率の低下
 - ⇒インフラの長寿命化、施設の集約化・複合化／施設の有効活用
- ・都市の低密度化、スポンジ化
 - ⇒空家・空地対策、公共交通の維持

■技術・社会の変化

- ・ソサエティー5.0
 - ⇒新技術の活用による地域課題解決、スマートシティの推進
 - ⇒新たな産業及び関連する雇用の創出
- ・価値観の変化・多様化
 - ⇒デジタルネイティブ世代の増加に対応した社会システムの創出（働き方、サービス）
 - ⇒関係人口を増やす（地域に関わることに価値を見出す人）
- ・外国人の増加
 - ⇒国籍に関わらず暮らしやすい地域社会づくり
- ・災害リスクの高まり
 - ⇒地域の防災力・消防力の強化
- ・持続可能な開発
 - ⇒SDGs への取り組み
 - ⇒関係人口の拡大、多文化共生

2040年の碧南市の将来予測（未来カルテ）2015年対比

■人口と財政

- ・総人口 8%減、65 歳以上 68%増。財政は 23 億円の減

■産業別就業者数

- ・製造業は 9%減だが、産業別就業者比率は 46%を維持。農業就業者数は 38%減。

■教育

- ・幼稚園・保育園在籍者数 16%減、小学校児童数 23%減、中学校生徒数 25%減。

■福祉

- ・介護受給者数 78%増、認知症患者数 95%増
- ・要介護 3 以上介護受給者数約 2 倍増

へきなんみらい会議の結果

- 6 月 8 月 9 月に実施した市民参加会議(約 16 名の自主参加)市民主体のまちづくり戦略を検討した結果 3 つの提案があった
 - ①「歩いて暮らせるまちづくりプロジェクト」
 - 市民が集いやすいように、碧南中央駅など駅前に賑わいを生み出したり、公共交通の路線改善を行う
 - まず市民は積極的にまちを歩いて公共交通を使う
 - ②「防災まちづくりプロジェクト」
 - 防災に力を入れているがその情報が市民にうまく伝わっていない、市民が知りたい情報を分かりやすい伝えてほしい。
 - 市民により地区別の防災マップづくりをする
 - ③「碧南の魅力再発見プロジェクト」
 - 市には様々な資源やそのパンフレットが作られているが市民に知られていない。市の魅力を知る仕組みがほしい。
 - 市民によるイベント実施やお互いが積極的に誘いあう

現計画の総括と今後の方向

第 1 章 手と手を取り合う結びあいのまちづくり

- ・「碧南市協働のまちづくりに関する基本条例」の制定、地域連携推進員の配置、「協働のまちづくり(ハンドブック)」の作成など、市民協働の推進を図った。
- ・地域まちづくり組織の設置と協働のまちづくりに参加する市民の拡大が必要
- ・質の環境基準が適合していない油ヶ淵の水質改善に向けて、愛知県を中心とする油ヶ淵水質浄化促進協議会により、ソフト・ハード両面からの施策がさらに必要
- ・水道の配水管の耐震化率は、H30年度末現在で22.7%と依然として低い。今後の水需要の減少が予想されるため、ダウンサイジングや施設の再配置の検討が必要
- ・旧八村川(排水路)の上部空間及び名鉄三河線跡地を活用した碧南レールパークの整備が完了し、緑のネットワーク化を図った。
- ・生産緑地は R4年の指定期間満了が控えており、必要な公園用地の先行的な取得が必要
- ・緊急輸送路の橋梁やポンプ場の耐震化は完了
- ・狭あい道路の拡幅・整備、空家の除去・改修を促進するための補助制度等を実施

第 2 章 住み続けたい快適なまちづくり

- ・衣浦豊田道路については順次4車線化を事業中、(都)衣浦岡崎線は事業が完了
- ・駅周辺のまちなか居住、住工混在の解消、地区計画等の導入による市街地整備が必要
- ・「碧南市道路寄附採納要綱」に基づき狭あい道路の拡幅・整備事業の目標を達成
- ・矢作川堤防リフレッシュ道路は、桜づつみから中畑橋手前までを供用開始
- ・碧南緑地の再整備事業として、スポーツ施設(サッカーグラウンド、ビーチコート)を整備
- ・衣浦ポートアイランドを種地としたふ頭機能再編を進めるために、港湾計画の変更と官民連携による衣浦ポートアイランド活用の推進を働きかけることが必要
- ・ふれんどバスの利用者は増加傾向で、碧南駅ー碧南高校間の路線延長を実施
- ・衣浦港2号地工業用地は全区画契約が成立したが、新たに立地を希望する企業向けの開発可能地が不足。
- ・販路拡大補助金、IT 活用補助金、創業チャレンジ補助金、人材確保に要する経費の一部を補助する制度を相次いで創設
- ・市内各所に英訳付き観光案内看板を設置。ARアプリやガイドマップ「へきなん発見の旅」を多言語(中(簡体・繁体)、英、葡)で作成

3. 健やかに育み支えあうまちづくり

- ・市民病院に地域包括ケア病棟、訪問看護ステーションを設置して地域包括ケアシステムを確立
- ・市内6地区で地域住民、社会福祉協議会、各ボランティア団体、福祉事業者等を対象に地域福祉推進会議を実施し、今後も継続的に活動を支援することが必要
- ・高齢者ほっとプランに基づき、地域密着型サービスを充実。(グループホーム、小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介護等)
- ・認知症サポーター登録制度、成年後見制度の周知、事業者との高齢者見守り協定の活用方策の検討が必要
- ・子育て世代包括支援センターを開設、公立保育園全園において2歳児保育の開始、新川・中央・棚尾児童クラブなどは小学校敷地内又は隣接地に建設、待機児童ゼロの維持等の支援策を充実
- ・自立支援給付により、資格取得、仕事のスキルアップを目指すひとり親家庭が増加
- ・H29年4月に碧南市消費生活センターを開設し、相談件数が増加

4. 人を育み活かす創造のまちづくり

- ・新教育要領及び新保育指針に基づき学びの連続性を意識した幼児教育を実施した。今後は保健、安全、防災、預かり保育等を含めた「全体的な計画」を各園で策定が必要
- ・生徒指導対応教員、少人数授業対応教員、スクールアシスタントを加配・拡充。今後は今以上にインクルーシブ教育、日本語教育の対応が必要
- ・美術館の観覧者は過去最高(H29 年度)で市外の人が 7 割を超えた
- ・芸術文化ホール、美術館、無我苑などとの連携による新たな顧客の開拓が必要
- ・各種の施設の老朽化対策、今後の管理・運営や新たな利用方法の見直しが必要

5. 信頼される開かれたまちづくり

- ・碧南市公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化が進む施設の大規模改修、新設・統合などの検討が必要である
- ・H24 年 9 月に「碧南市財政再スタート宣言」を発表し、行政サービスを再点検し、標準レベルへと改革・事務改善を実施
- ・景気動向によって法人市民税等の変動が大きく、税収の増減予測とその対応が必要

碧南市の特性と問題点

	碧南市の特性（強み）	碧南市の問題点（弱み）	関連する外部環境の動向
人口	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加は今後の維持と予測 10代男性は転入超過 	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の人口は減少が続く。外国人の人口増で全体の人口増加が続く。 20歳代、30歳代は男女ともに転出超過傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少時代に転換し、都市間で人口増減の格差が拡大 人材不足が深刻化 各都市が若者の定住・移住対策を重視
産業	<ul style="list-style-type: none"> 人口当り製造出荷額、農業産出額は周辺都市の中で最も高い 販路拡大、IT活用、創業チャレンジ、人材確保のための補助制度を相次いで創設 	<ul style="list-style-type: none"> 人口当り年間商品販売額、小売店面積は周辺都市に比べて低い 新たに立地を希望する企業向けの開発可能地がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術の発展による新たな産業及び関連する雇用創出が進展 地域課題解決に向けて新技術を活用した新しい社会システム、ビジネスの創出が進展
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> 衣浦豊田道路については順次4車線化を事業中 衣浦ポートアイランドを種地としたふ頭機能再編が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道普及率、土地区画整理整備率は周辺都市に比べて低い 市街地内の空き家が増加 駅周辺の商業サービス機能の低下による空洞化 	<ul style="list-style-type: none"> リニア新幹線の整備による経済圏の拡大(名古屋駅周辺のポテンシャルが高まる) 国際空港、高速道路、高速鉄道の一体化(高速化、シームレス化)が進展 都市の低密度化・スポンジ化の進展
文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たり文化・体育施設数、公立図書館蔵書数は、周辺都市の中では多い 美術館の観覧者は過去最高(H29年度)で市外の人が7割 生徒指導対応教員、少人数授業対応教員、スクールアシスタントを加配・拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 各種施設の老朽化対策が必要 教員一人当たり中学校生徒数は周辺都市の中で最も多い 	<ul style="list-style-type: none"> インパウンドの拡大(日本の歴史・文化に興味のある観光客が増加) モノ消費からコト消費へ(観光ニーズの多様化)
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たり病床数は周辺都市の中で最も多い 市民病院に地域包括ケア病棟、訪問看護ステーションを設置して地域包括ケアシステムを確立 碧南市の子育て環境は、周辺都市の中でも評価が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たり医師数は県平均以下 周辺都市の中では25歳～39歳の定住意向の割合が低い 碧南市の欠点として「交通が不便」「買い物不便」「災害の危険性」が多い 大地震による液状化、浸水の危険性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅介護、在宅医療へのシフト、医師不足・介護施設の職員の不足が顕在化 災害リスクの高まり(大規模地震、集中豪雨) 持続可能な開発:SDGsへの対応
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 「碧南市協働のまちづくりに関する基本条例」の制定、地域連携推進員の配置、「協働のまちづくり(ハンドブック)」の作成等協働のまちづくりの仕組みは整備 	<ul style="list-style-type: none"> 協働のまちづくりに参加する市民の増やすことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人の増加、単身世帯の増加等による地域社会のつながりの希薄化 地域に関わることに価値を見出す人の増加⇒関係人口
行財政	<ul style="list-style-type: none"> 財政力指数は1.18と高い H24年9月に「碧南市財政再スタート宣言」を発表し、行政サービスの改革・事務改善を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 扶助費の増加、国民健康保険特別会計や病院事業会計における一般会計からの繰出金の増加 景気動向によって法人市民税等の変動が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 組織、地域の枠を超えた連携が進展(官民連携、広域連携等) 行政のデジタル化・スマートシティの進展 国からの財政支援の縮小

碧南市の主要課題

課題設定の視点	主要課題
碧南市の優位性を磨き、魅力をさらに高める	■地域の産業力の強化 ・新たな産業用地の開発による企業立地及び新事業(ビジネス)の創出による新産業の育成を図るとともに、農業・商業観光・工業の連携(6次産業化、直接販売、オリジナル商品等)による商品・サービスの付加価値及び地域ブランド力を高める。
	■港湾地域の再開発 ・衣浦ポートアイランドの活用に向けた土地利用計画及び臨港道路計画の検討と推進に積極的に協力するとともに、衣浦ポートアイランドを種地とした港湾機能の再編・強化を働きかける。
碧南市の活力を将来にわたって維持する	■子育て世代の定住促進 ・子育て支援施策、特色のある教育を推進し、子育て・子育て環境の充実と割安な住宅価格を活かした住宅供給等により、転出超過が進む子育て世代の流出を防止するとともに、市外からの転入を誘導
	■文化・公園施設の活用・維持 ・美術館、水族館、明石公園等の特色のある施設を活用した魅力づくりを進め、広域からの利用を増やすとともに、今後施設の老朽化に対応した保守・管理体制の充実
	■まちなかの活性化 ・空き家・空き地等の空きスペースの有効活用による新たな機能の導入を図るとともに、歩きたくなるまちづくりを進めるなど、人が集まる魅力を創出
今後深刻化する問題に適切に対応し、将来の安心を確保	■超高齢社会に対応した地域福祉体制の確立 ・今後、要介護者、認知症の人が急増しても、誰もが安心して暮らすことができるようにするために、市民病院を核として保健・医療・福祉の人材を確保するとともに、各主体間の連携を強化し、地域包括ケアシステムを確立・充実 ・疾病・重症化予防と自立した生活を促進するために、健康づくりと医療体制を充実
	■防災対策の充実 ・全国各地で頻繁に発生している集中豪雨や津波による水害からの安全を確保するために、河川の治水対策、雨水排水対策を強化するとともに、自らの安全は自ら守る自助・共助の活動を推進
	■多文化共生の推進 ・増加する外国人が地域住民との相互交流・理解を深めることにより、地域社会の一員として役割を果たしながら相互に支え合う地域を形成
持続可能な地域を支える方策の確立	■多様な主体間の連携促進 ・協働のまちづくりの仕組みを活用して、保健・医療・介護・地域福祉・就労、子どもの学習・安全、地域防災・防犯、観光交流等に関係する様々な団体・グループの連携を強化し、地域課題解決に向けたと取組を促進する仕組みを確立
	■幅広い公民連携の推進 ・民間のアイデア、ノウハウ、技術を活用して課題解決や市民サービスの向上を図るために、連携する民間の対象を全国に広げ、幅広い分野で官民連携を推進
	■社会資本の再編・長寿命化 ・人口減少による将来的な需要の低下を見据えながら、限られた財源の中で今後老朽化が進む公共施設等の社会資本の再編・更新・長寿命化を計画的に進める方策・仕組みを構築

第6次碧南市総合計画施策体系（案）

第5次総合計画の施策体系		
章	節	基本施策
第1章 手と手を取り合う 結びあいのまちづくり	(1) 市民協働のまちづくり	1) 市民協働 2) 地域コミュニティ
	(2) 環境に配慮したまちづくり	1) 環境にやさしいまち 2) 環境保全と公害防止 3) 新たなエネルギー資源の活用
	(3) 快適な生活を営めるまちづくり	1) 住宅の整備と供給、2) 水道、3) 下水道事 4) ごみの減量化と3R、5) 環境衛生 6) 緑、7) 景色づくり
	(4) 安全で災害に強いまちづくり	1) 防災対策 2) 消防・救急体制 3) 防犯体制、4) 交通安全
第2章 住み続けたい快適なまちづくり	(1) 質の高い都市基盤のまちづくり	1) 土地利用・計画的市街地、2) 幹線道路 3) 生活道路、4) 河川・下水道雨水・治水 5) 港湾、6) 衣浦ポートアイランド 7) 公共交通機関、8) 通信・情報化
	(2) バランスのとれた産業振興のまちづくり	1) 農業、2) 水産業 3) 工業・地場産業 4) 地域商業、5) 観光
第3章 健やかに育み支え合うまちづくり	(1) 質の高い保健・医療活動を展開するまちづくり	1) 健康、2) 医療、 3) 国民健康保険事業、 4) 高齢者医療保険制度、5) 介護保険制度
	(2) 思いやりあふれる福祉のまちづくり	1) 地域福祉、2) 高齢者支援、3) 子育て支援4) 障害者(児)支援、5) 低所得者支援 6) 勤労者福祉、7) 消費者、8) 人権、9) 国民年金
第4章 人を育み活かす創造のまちづくり	(1) 人を育み活かす創造のまちづくり	1) 幼児養育、2) 義務教育 3) 生涯学習、4) スポーツ 5) 青少年健全育成
	(2) 地域文化を守りみんなが誇れるまちづくり	1) 芸術文化 2) 文化財 3) 学術資源
第5章 信頼される開かれたまちづくり	(1) 市民協働型行政のまちづくり	1) 広報・広聴活動、2) 満足されるサービス 3) 信頼される行政運営、4) 広域行政
	(2) 健全な財政を推進するまちづくり	1) 安定的な財政運営 2) 公平・公正な税務



第6次総合計画の施策体系(案)		
	基本施策	担当課
第1分科会 安全・安心	① 防災対策 ② 防犯・交通安全	① 防災課 ② 地域協働課
	③ 上下水道・治水 ④ 公園・緑地	③ 下水道課、水道課 ④ 都市整備課
	⑤ 環境保全・環境衛生、資源循環(ごみ・エネルギー)	⑤ 環境課
第2分科会 子ども・福祉・文化	⑥ 子育て支援 ⑦ 教育環境	⑥ こども課 ⑦ 学校教育課、庶務課
	⑧ 生涯学習・スポーツ ⑨ 地域文化	⑧ 生涯学習課、スポーツ課 ⑨ 文化創造課、文化財課、美術館、水族館
	⑩ 健康・医療 ⑪ 地域福祉(地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉) ⑫ 社会保障(地域福祉、低所得者、福祉医療・保険制度)	⑩ 健康課、市民病院(医事経営、管理) ⑪ 福祉課、高齢介護課 ⑫ 福祉課、高齢介護課、国保年金課
第3分科会 産業基盤	⑬ 都市基盤(道路、港湾) ⑭ 市街地整備	⑬ 土木港湾課 ⑭ 都市整備課、都市計画課、建築課
	⑮ 農業・水産業 ⑯ 工業・地場産業 ⑰ 商業・観光	⑮ 農業水産課 ⑯ 商工課 ⑰ 商工課
第4分科会 行財政	⑱ 市民協働・コミュニティ	⑱ 地域協働課
	⑲ 開かれた市政(広報広聴、情報公開、行政情報提供) ⑳ 効率的な行財政運営(財政運営、税務、広域行政、電子行政)	⑲ 経営企画課、市民課、議会事務局 ⑳ 秘書情報課、経営企画課、行政課、資産活用課、税務課、会計課、監査委員事務局

施策の方針

① ○○○○（例：水害対策）

-
-
-

② ○○○○（例：地震・津波対策）

-
-
-

③ ○○○○（例：防災・消防・救急体制）

-
-
-

■ 関連計画

計画名	計画期間

図表

写真

基本施策1 防災対策

施策のめざす姿

大規模な災害による被害を最小限に留めるため、防災対策や消防・救急対策の強化が進展するとともに市民や地域が主体的に防災力を高めています。

この基本施策によりめざす町や市民生活の姿を示す。

現状と課題

全体的な動きや「評価シート」の主な実績から整理する。

【現状】

- 本市は東海地震に関する地震防災対策地域であるとともに、東南海・南海地震防災対策強化地域に指定されており、災害に強い都市市民ぐるみの対策を進めてきました。
- 基盤整備としては、愛知県が緊急輸送道路等の橋梁の耐震化を実施し、本市はブロック塀撤去の促進、ポンプ場の耐震化、狭あい道路の整備と道路後退用地の確保を進めています。
- 危険空き家の対策や空き家の活用などのために、空家住宅除去や改修の支援と、空家バンクを運用しています。
- 消防力の強化のために、東部広域連合が消防救急デジタル無線、高機能消防指令システムの整備、消防車両の更新等を実施しました。また、消防団員確保のために、各種手当の増額や企業の協力や学生の参加を促してきました。
- 地域の防災力を高めるために、防災リーダーの育成、総合防災訓練への障害者の参加などの取組を実施しました。

【課題】

- 民間住宅の耐震化の促進や、災害時に危険となる空家の対策など災害に強い都市構造をつくるのが課題です。
- 消防施設・機器の更新、救急救命士の確保などの消防・救急体制を整えることとともに消防団の確保の対策や、自助・共助のための市民や地域の啓発が課題です。

施策方針の項目に概ね対応して「評価シート」の今後の課題などからまとめる。

図表・写真

まちづくり指標

現計画の指標、個別計画の代表的な指標、10年度の指標を原則3つ以内記載する。

指標	現状値	めざす方向
市有建物の耐震化率(%)		増加
自主防災訓練の参加者数(人)		増加
消防団員の充足率(%)		維持

施策の方針

「評価シート」今後の方向や現計画の主要施策の方向を参考にして方針として再整理する。

①防災対策

- 災害に強い都市構造を形成するために、ポンプ場や道路、下水道、河川、海岸施設をはじめとする公共施設や木造住宅など民間建築物の耐震化の促進、狭あい道路の整備や危険空き家対策、土砂災害や急傾斜地の対策を進めます。
- ハザードマップによる危険地域の周知、災害時における建物の危険度判定などの体制を強化します。
- 市民や地域が自助と共助の意識を高めて災害に備えることができるように、自主防災活動を支援して、防災訓練の充実や災害時要援護者の対策を図ります。

②防災・消防・救急体制

- 地域防災力の充実強化に向けて、消防団活動の推進と地域防災体制との連携強化を図ります。
- 衣浦広域連合による消防設備の更新や救急救命士の確保を計画的に進めます。
- 消防団員の確保のための処遇の改善や参加しやすい運営、企業や女子、若い年齢層の参加を促進します。

個別計画を参照してもらえるように、施策の方針と関連する計画について記載

■関連計画

計画名	計画期間
碧南市地域防災計画	
碧南市水防計画	
碧南市地震対策減災計画	
碧南市建築物耐震化促進計画	
社会資本整備総合計画	
碧南市下水道総合地震対策計画	
衣浦東部広域連合広域計画	

